

未来の箕面は
どんなまち？

現在、北大阪急行線で延伸工事が進んでいるのはご存知の通り。「千里中央駅」から国道423号に沿って2.5キロ延伸し、「箕面船場阪大前駅」と「箕面萱野駅」の2駅が新しく2020年度内に開業を目指している。乗り換えなしでOsaka Metro御堂筋線の「梅田駅」まで直接アクセスできるようになり、所要時間は24分と、利便性が大幅に向上する。

大阪都心部にアクセスしやすくなるのは嬉しいが、同じくらい期待したくなるのが駅周辺の施設やスポットではないだろうか。一体どんなまちになるのか、箕面市地域創造部の「北急まちづくり推進室」と「鉄道延伸室」の方々に話を聞いた。

「文化とビジネス」、
そして「子育て」

まずは「千里中央駅」に連なる「箕面船場阪大前駅」。すぐそばに図書館、生涯学習センター、文化ホールが集まる

複合公共施設がオープンする。図書館と生涯学習センターの指定管理者は『大阪大学』に決定した。このような市の施設を大学が運営するのは、全国でもほほ例がないのだそう。地域と大学の連携で、新たな取り組みやビジネスが生まれる日も近いかもしれない。

文化ホールは老朽化した『グリーンホール』を移転する形で新築される。市民の発表の舞台となる小ホールと、本格的な芸術鑑賞ができる大ホール



保育所や子どもの遊び場施設など、子育て応援施設ができる

みのおキューズモール WEST

かやのさんべい橋のそばに駅入り口が接続!

便利なバス・タクシー乗り場も整備

キューズモールふれあいパーク(箕面市立かやの広場)

箕面萱野

子育てを核としたまち
場所になりそうだ。

そして子育て世代にとって要注目なのが、新たな終着駅となる「箕面萱野駅」。すぐそばの『イオン 箕面店』や『みのおキューズモール』は、これまでも「かやの中央」エリアとして賑わいの中心地だった。バスターミナルやタクシー乗り場、駐輪場が整備され、今まで以上に便利で楽しいショッピングになるのは確実。さらには駅チカに認可保育所や、子どもの遊び場施設、市の「出張子育てひろば」が行われるキッズスペースなど、親子で訪れたいお出かけスポットを集めた施設が完成予定だという。子ども連れのファミリーが主役のエリアとして、パワー

があり、音楽や演劇、ダンスなど多彩な企画を呼び込む考え。年齢を問わず、文化や学びへの好奇心を持つ人にとって欠かせない場所になりそうだ。

北大阪急行 延伸と箕面のまちづくり

工事現場を通り過ぎるたびに、開通の日が待ち遠しくなる北大阪急行線の延伸。新駅周辺のコンセプトや、まちづくりの計画をまとめた。

巻頭特集 NEW みのお、カミングスーン!



文化とビジネスの拠点
箕面船場阪大前

地上6階建て、地下1階の複合公共施設。こちらは駅からすぐの文化ホール棟

建物裏側には、

今の街並みは素直なチェック! 『箕面船場阪大前』屋上から撮影

館内にはカフェもオープン! 読書や勉強がはかどりそう...

イベントいっぱい! 駅前広場

千里中央

大阪モノレール

北大阪急行線

Extension!

新しい箕面を待ち望んで



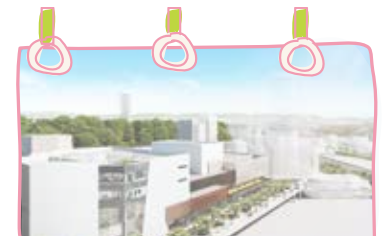
アップに期待大だ。一方で周囲の田園風景はやみくもに開発せず、まちなかの緑として守り育てる方針。「今ある箕面市の魅力は無くさず、新たな要素を付け加える」という方針でまちづくりを行っていくという。

実は今回の延伸は、50年越しに叶った地元の「夢」でもある。1968年に発行された『箕面市総合計画』には「軌道の市域内延伸は、本市将来の発展に不可欠な要件」とあり、すでに北大阪急行線が名指しで登場しているのだ。

当時まだ延伸事業の現実味は薄かったものの、市は駅前広場用地の確保や基金の積立などを続けて将来に備えてきた。『国土交通省』に事業を認められた後も、『北大阪急行電鉄』と

の交渉や調査報告書の作成を通じ、事業スキームの大枠を確立させたのは2012年のこと。その陰には地道な市民活動や市内外の自治体からの応援がある。工事はこれからが大詰めだ。にわかに測れないほどの年月と人の手がかけられていると感じた。延伸によって南の「梅田駅」、東の『EXPOCITY』、西の『大阪国際空港』と、さらに深くつながる箕面のまち。ますます車窓に新たな箕面の風景が流れる日を楽しみにしたい。

取材協力



箕面市地域創造部
(北急まちづくり推進室、鉄道延伸室)
所在地/箕面市西小路4-16-12階
問い合わせ/072-1723-1212(代表)